

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	学科の設置							
フリガナ設置者名	ガッコウホウジン シガガクエン 学校法人 滋賀学園							
フリガナ大学の名称	シガブンカタンキダイガク 滋賀文化短期大学 (Shiga Bunka College)							
大学本部の位置	滋賀県東近江市布施町29番地							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める短期大学として学芸を教授・研究するとともに、複雑、多様化する現代社会において、より豊かに生きるために必要とする幅広い知識と思考方法を修得させ、日常に起こる諸問題を合理的かつ科学的に解決することのできる教養豊かで、円満な人格をもつ人物を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>本学科は、生活設計に関わる広範な知識・技術を教授し、企業実務及び福祉に関して高度な専門性を有する人材の育成を目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	ライフデザイン学科 (Department of Life Design)	年	人	年次人	人	短期大学士 (家政学)	平成21年4月 第1年次	滋賀県東近江市布施町29番地
	(介護福祉コース) (Course of Care Work)	2	100	-	200	短期大学士 (社会福祉学)	平成21年4月 第1年次	滋賀県東近江市布施町29番地
	計	2	内) 40	-	内) 80	短期大学士 (社会福祉学)	平成21年4月 第1年次	滋賀県東近江市布施町29番地
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年4月、びわこ学院大学設置予定（平成20年3月認可申請済み）</li> <li>・平成21年4月、滋賀文化短期大学→びわこ学院大学短期大学部に名称変更予定</li> <li>・平成21年度より、滋賀文化短期大学生生活文化学科を学生募集停止（△50）</li> <li>・平成21年度より、滋賀文化短期大学人間福祉学科を学生募集停止（△210）</li> </ul>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	ライフデザイン学科 (介護福祉コース)	講義	演習	実習	計	62 (91) 単位		
		64 科目	32 科目	7 科目	103 科目			

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員	
	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設分	ライフデザイン学科	7 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	10 (6)	0 (0)	30 (21)
	計	7 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	10 (6)	0 (0)	30 (21)
	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
既設分	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
合計	7 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	10 (6)	0 (0)	30 (21)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事務職員	6 (6)		0 (0)		6 (6)		
	技術職員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	その他の職員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計	6 (6)		0 (0)		6 (6)		
校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校舎敷地	0 m <sup>2</sup>	3,573 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		3,573 m <sup>2</sup>		
	運動場用地	0 m <sup>2</sup>	6,741 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		6,741 m <sup>2</sup>		
	小 計	0 m <sup>2</sup>	10,314 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		10,314 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	10,337 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		10,337 m <sup>2</sup>		
	合 計	0 m <sup>2</sup>	20,651 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		20,651 m <sup>2</sup>		
		内 訳						
		自己所有		借 用				
		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>				
		使用保証期間 ( 年)						

びわこ学院  
大学  
と共用

校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	びわこ学院 大学 と共用			
	185 m <sup>2</sup> ( 185 m <sup>2</sup> )	5,298 m <sup>2</sup> ( 5,298 m <sup>2</sup> )	1,424 m <sup>2</sup> ( 1,424 m <sup>2</sup> )	6,907 m <sup>2</sup> ( 6,907 m <sup>2</sup> )				
		内 訳						
		自己所有	借 用					
6,907 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>						
校舎用地が借用の場合の経常経費の保有状況		0 千円						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
				(補助職員 人)	(補助職員 人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				
図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・ 器具 点	標本 点	
		( )	( )	( )	( )	( )	( )	
		( )	( )	( )	( )	( )	( )	
	計	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
図 書 館	面 積		閲覧座席数		収納可能冊数			
体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
経費の見積り及び 維持方法 の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	350千円	350千円	図書購入費	4,110千円	3,570千円	2,660千円
	共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	1,250千円	3,670千円	3,520千円	
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,160千円	930千円	-	-	-	-	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等					
附属施設の概要		該当なし						

教育課程等の概要  
( ライフデザイン学科 )

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	イ欄	ロ欄	ハ欄		
人間の理解	宗教と人間	2春		2		○			1									
	哲学的人間学	1秋		2		○			1									
	人間の生命と科学	2秋		2		○								介護選択		兼1		
	人間の発達と心理	2秋		2		○										兼1		
	こころとからだのしくみの基礎A	1春		2		○			1					介護必修				
	こころとからだのしくみの基礎B	1秋		2		○			1					介護必修				
	人間の尊厳と自立	1春		2		○								介護必修		兼1		
	人間福祉概論	1春		2		○								介護必修		兼1		
	介護の基本Ⅰ	1春		4		○						1		介護必修				
	介護の基本Ⅱ	1秋		4		○						1		介護必修				
小計( 10 科目)			0	24	0				2	0	0	1	0				兼4	
社会の理解	生活文化入門	2秋		2		○									介護選択		兼1	
	住文化論	1秋		2		○											兼1	
	くらしと環境	1秋		2		○			1									
	地域環境論	1秋		2		○											兼1	
	社会と人間	2秋		2		○											兼1	
	企業・流通論	1秋		2		○											兼1	
	法と社会	2春		2		○								介護選択		兼1		
	生活と福祉	1秋		2		○								介護必修		兼1		
	社会保障制度総論	1春		2		○								介護必修		兼1		
	社会保障制度各論	2秋		2		○								介護選択		兼1		
小計( 10 科目)			0	20	0				1	0	0	0	0				兼7	
基礎教育科目群	情報・基礎教養	現代基礎教養(数学)	1春		2		○									介護選択		兼1
		現代基礎教養(社会)	1春		2		○			1						介護選択		
		日本語表現法	1春		2		○			1								
		ビジネス文書	1春		2		○											兼1
		簿記会計の基礎	1春		2		○											兼1
		パソコン活用演習A	1春	1				○										兼1
		パソコン活用演習B	1秋	1				○										兼1
		情報処理論Ⅰ	1春		2		○			1						介護選択		
		情報処理論Ⅱ	1秋		2		○			1								
小計( 9 科目)			2	14	0				2	0	0	0	0				兼4	
コミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1春		2		○									介護必修			
	人間関係とコミュニケーション演習A	1秋		1			○										兼1	
	人間関係とコミュニケーション演習B	1秋		1			○										兼1	
	リーダーシップ論	2秋		2		○								介護選択		兼1		
	協働・組織活動論	2秋		2		○								介護選択		兼1		
	ビジネスコミュニケーション	1秋		2		○											兼1	
小計( 6 科目)			0	10	0				0	0	1	0	0				兼5	
語学	実用英語	2春		2		○												
	英会話Ⅰ	1秋		2			○										兼1	
	英会話Ⅱ	2春		2			○										兼1	
	言語と文化	2秋		2		△		△									兼1	
	中国語	2春		2			○										兼1	
	スペイン語	2春		2			○										兼1	
小計( 6 科目)			0	12	0				0	0	0	0	0				兼3	
保健体育	体育実技	1春		1				○									兼1	
	レクリエーション論	1秋		2		○								介護選択		兼1		
	小計( 2 科目)			0	3	0				0	0	0	0	0				兼2



学位又は は	短期大学士(家政学) ※介護福祉コース 短期大学士(社会福祉学)	学位又は 学科の分野	家政学関係	社会学・社会福祉学関係
教育課程の編成方針				
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
		1学年の学期区分	2 期	
		1学期の授業期間	15 週	
		1時限の授業時間	90 分	
<p><b>「インテリアデザインコース」及び「情報メディアコース」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎教育科目群－以下の要件を含め20単位以上を修得 <ul style="list-style-type: none"> <li>「人間の理解」「社会の理解」「語学」「コミュニケーション」より、それぞれ2単位以上を修得</li> <li>「情報・基礎教養」より、4単位(必修2単位を含む)以上を修得</li> <li>「保健体育」より、1単位以上を修得</li> </ul> </li> <li>・専門教育科目群－42単位以上を修得</li> </ul> <p>※備考イ欄に「介」で表記する介護系科目は、介護福祉コース所属の者以外の者の履修は認めない</p> <p><b>「介護福祉コース」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記「インテリアデザインコース」及び「情報メディアコース」の要件に加え、備考ロ欄に示す「介護必修」全38科目及び「介護選択」より4科目以上を修得</li> </ul>				



専任 等区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目名称	担当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	
							開設後の職 (就任年月)	
専	講師	カタヤマ ヒロキ 片山 弘紀 <平成21年4月>	修士 (人間科学)	人間関係とコミュニケーション	2	1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 講師 (平成18年4月)	
				コミュニケーション技術	2	1		
				コミュニケーション技術演習	1	1		
				介護総合演習Ⅰ	1	1		びわこ学院大学短期大学部 講師 (平成21年4月)
				介護総合演習Ⅱ	1	1		
				介護総合演習Ⅲ	1	1		
				介護総合演習Ⅳ	1	1		
				介護実習Ⅰ	2	1		
				介護実習Ⅱ	5	1		
				介護実習Ⅲ	1	1		びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
介護実習Ⅳ	4	1						
専	助教	ヤマ カズミ 山 和美 <平成21年4月>	短期大学卒 (介護)	介護の基本Ⅰ	4	2	滋賀文化短期大学人間福祉学科 助教 (平成19年4月)	
				介護の基本Ⅱ	4	2		
				生活支援技術概論B	2	1		
				生活支援技術演習A	2	1		
				生活支援技術演習B	2	1		
				生活支援技術演習C	2	1		
				介護過程Ⅰ	1	1		
				介護過程Ⅱ	2	1		
				介護過程Ⅲ	1	1		
				介護過程Ⅳ	1	1		
				介護総合演習Ⅰ	1	1		
				介護総合演習Ⅱ	1	1		
				介護総合演習Ⅲ	1	1		
				介護総合演習Ⅳ	1	1		
				介護実習Ⅰ	2	1		
				介護実習Ⅱ	5	1		
介護実習Ⅲ	1	1						
介護実習Ⅳ	4	1						
兼任	講師	オオエ ヒデオ 大江 秀雄 <平成21年4月>	農学博士	人間の生命と科学	2	1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 教授 (平成6年4月)	
				現代基礎教養(数学)	2	1		
兼任	講師	フクダ カナエ 福田 香苗 <平成22年10月>	教育学修士 ※	生活支援技術概論A	0.6	1	びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
兼任	講師	フクダ カナエ 福田 香苗 <平成22年10月>	教育学修士 ※	人間の発達と心理	2	1	元 京都大学教育学部 研究員 (平成8年3月まで)	
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年10月)	
兼任	講師	カワシマ ジュンジロウ 川島 順次郎 <平成21年4月>	学芸学士	人間の尊厳と自立	2	1	滋賀県彦根市立中学校 教諭 (平成8年3月まで)	
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
兼任	講師	タナカ ヒロカズ 田中 博一 <平成21年4月>	文学修士	人間福祉概論	2	1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 教授 (平成6年4月)	
				社会保障制度総論	2	1		
				社会保障制度各論	2	1		
兼任	講師	ヒラオ リョウジ 平尾 良治 <平成22年10月>	文学修士	生活文化入門	2	1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 教授 (平成18年4月)	
				協働・組織活動論	2	1		
兼任	講師	ヒラオ リョウジ 平尾 良治 <平成22年10月>	文学修士	生活文化入門	2	1	びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年10月)	
				協働・組織活動論	2	1		
兼任	講師	ニシカワ ミサコ 西川 実佐子 <平成21年10月>	生活科学士	住文化論	2	1	滋賀文化短期大学 非常勤講師 (平成8年4月)	
				建築計画	2	1		
				住環境生活実習	2	1		
				生活支援技術演習D	0.6	1		
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年10月)	

専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目名称	担当 単位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	カサイ トシミツ 笠井 敏光 <平成21年10月>	修士 (文化政策学)	地域環境論	2	1	大東市立生涯学習センター 館長 (平成18年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	モトバヤシ ヤスヒサ 本林 靖久 <平成21年4月>	文学修士 ※	社会と人間 ビジネス文書	2 2	1 1	滋賀文化短期大学 非常勤講師 (平成11年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤシロ ノリフミ 屋代 徳文 <平成21年10月>	人間科学士	企業・流通論	2	1	りそな総合研究所株式会社 社員 (平成18年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	カラスノ タケシ 鳥野 猛 <平成21年10月>	修士 (社会福祉学)	法と社会 生活と福祉	2 2	1 1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 准教授 (平成15年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	サイウチ タケオ 齊内 武男 <平成21年4月>	経済学士	簿記会計の基礎	2	1	元 滋賀県 県立高等学校教諭 (平成17年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
専	教授	ニシウマ サブロー 西馬 三郎 <平成21年4月>	博士 (工学)	パソコン活用演習A パソコン活用演習B	1 1	3 3	滋賀文化短期大学生活文化学科 教授 (平成18年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ハラダ ナオコ 原田 直子 <平成21年10月>	学芸学士	人間関係とコミュニケーション演習A	1	1	元 理学電気株式会社 事務員 (昭和58年6月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	マエダ マリ 前田 真里 <平成21年10月>	文学士	人間関係とコミュニケーション演習B	1	1	元 外務省大使館 専門調査員 (平成10年8月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	マキタ モリカツ 牧田 衛活 <平成21年10月>	経済学士	ビジネスコミュニケーション	2	1	びわこ放送株式会社 社員 (平成3年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	ナガミネ トモサ 長嶺 共全 <平成22年4月>	博士 (工学)	実用英語	2	1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 准教授 (平成17年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ジェイソン ベインズ Jason Baynes <平成21年10月>	修士 (教育学) 修士 (人類学)	英会話 I 英会話 II	2 2	1 1	滋賀学園中学・高等学校 ALT (平成17年11月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)

専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	保有学位等	担当授業科目名称	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	パン ジュイン 逢 軍 <平成22年4月>	博士 (社会学) 修士 (人文学)	言語と文化 中国語	2 2	1 1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 講師 (平成20年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	チャベス トレス ジャック ケリネ CHAVEZ TORRES JACQUETINE <平成22年4月>	大学別科修了	スペイン語	2	1	京都七条職業安定所 通訳 (平成17年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	オクダ アイコ 奥田 愛子 <平成21年4月>	修士 (体育学)	体育実技	1	1	名古屋大学 総合保健体育科学センター研究員 (平成7年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ガモウ ヨウコ 蒲生 洋子 <平成21年10月>	専修学校卒 (歯科衛生)	レクリエーション論	2	1	株式会社泉倉庫介護サービス事業部 居宅介護支援事業所 職員 (平成17年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	オオヒラ マサミチ 大平 正道 <平成21年4月>	芸術学士	インテリア論 インテリア演出計画 インテリアデザイン演習	2 2 2	1 1 1	ゑびすや家具 代表 (昭和57年)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
							滋賀大学 名誉教授 (平成12年4月)
兼任	講師	アキモト ユキシゲ 秋元 幸茂 <平成21年10月>	芸術学士	デッサンと色彩	2	1	びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
							滋賀大学 名誉教授 (平成12年4月)
兼任	講師	イシイ カズヒロ 石井 和浩 <平成22年10月>	工学士	建築法規	2	1	石井建築設計事務所 代表 (平成4年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年10月)
兼任	講師	ツジ トモコ 辻 朋子 <平成21年10月>	短期大学卒 (保育科)	発達と老化の理解Ⅰ 発達と老化の理解Ⅱ	2 2	1 1	元 三重県四日市市立 保育園保育士 (平成19年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	保有学位等	担当授業科目名称	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)
兼任	講師	ムラカミ アツコ 村上 厚子 <平成21年10月>	専修学校卒 (看護)	認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ	2 2	1 1	元 滋賀文化短期大学人間福祉学科 教授 (平成20年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年10月)
兼任	講師	エンドウ ロクロウ 遠藤 六朗 <平成22年4月>	教育学学士	障害の理解Ⅰ 障害の理解Ⅱ	2 2	1 1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 教授 (平成18年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年4月)

専任 等区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目名称	担当 単位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ヤスダ ヨシト 安田 誠人 <平成21年4月>	教育学修士	介護の基本 I 障害の理解 I 障害の理解 II	4 2 2	1 1 1	滋賀文化短期大学人間福祉学科 准教授 (平成17年4月)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカタニ マミヨ 中谷 眞三代 <平成21年4月>	家政学士	生活支援技術概論A 生活支援技術演習D	0.6 0.6	1 1	元 滋賀県立大学大学院 人間文化学研究所博士前期課程 助教授 (平成14年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカイ ミユキ 中井 幸 <平成22年4月>	短期大学卒 (食物学)	生活支援技術演習D	0.8	1	元 滋賀県職員県立成人病センター 総括栄養士長 (平成11年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	マルヤマ キミコ 丸山 公子 <平成21年4月>	社会福祉学 文学士	介護過程 I 介護過程 II 介護過程 III 介護過程 IV	1 2 1 1	1 1 1 1	元 滋賀文化短期大学人間福祉学科 准教授 (平成20年3月まで)
							びわこ学院大学短期大学部 非常勤講師 (平成21年4月)

## 短期大学部ライフデザイン学科設置の趣旨

### 1. 設置の趣旨および必要性

#### (1) 生活文化学科及び人間福祉学科介護福祉専攻の成り立ちとその経緯

##### 1) 経緯

本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める短期大学として学術を研究するとともに、複雑、多様化する現代社会において、より豊かに生きるために必要とされる、幅広い知識と思考方法を習得させ、日常に起こる諸問題を合理的かつ科学的に解決できる、教養豊かで円満な人格をもつ人物を養成することを目的とし、平成2年に生活文化学科の単科大学として開学した。広く一般教養を高め、各自の個性を尊重し、情緒豊かな人間性を育み、人間愛に満ち、自立心に富んだ、有為の人格を育成する本学園の建学精神に従って、幅広い職業人の養成をしてきた。

また、平成6年には、少子高齢社会における地域福祉サービスを担う人材養成のため、介護福祉、人間福祉の2専攻からなる人間福祉学科を増設し、平成10年には地域の子育て支援の人材を育成する目的で児童福祉専攻を開設した。

##### 2) 生活文化学科

生活文化学科は、家庭、職場、地域社会で自立的に活動するための幅広い知識を修得することを目的に設置し、特に家庭生活にあっては豊かさの質的追求を行い、職業生活では的確な実務能力と適応力を発揮できる素養を培うとともに、地域の特性を読み取り、地域に根ざした視点で明日の地域社会を切り拓く、創意と意欲をもった人材の育成を目指してきた。

##### 3) 人間福祉学科

一方、核家族化の進展に伴う家族機能の低下や家族関係の変化によって、地

域におけるコミュニティ機能の充実や、公共サービスの支えが不可欠になっており、超高齢化社会を急速に迎えつつあるわが国において、とりわけ地方都市では、医療や交通、介護サービス等の各分野で喫緊の対策が必要とされている。

人間福祉学科介護福祉専攻は、高齢者家庭はもとより、生活に関連する社会サービスの充実を図るための人的資源として、施設をはじめ地域やコミュニティといった、生活基盤に密着した位置で生活を支える人材を育成してきた。ここでは高齢者、障害者などの、いわゆる社会的弱者を中心に、さまざまな社会的援助の必要な人々の諸問題を科学的に解明し、生活を支援するための具体的方策の立案方法や、援助技術の修得を目指してきた。

#### 4) 今後の社会的要請と求められる教育像

##### ①少子高齢社会への対応

21世紀に入り、超少子高齢・人口減少社会を迎えて家庭、職場、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しており、家庭生活、職業生活、社会生活のあり方も大きく変化してきた。

国の「ゴールドプラン」、「新ゴールドプラン」そして「ゴールドプラン21」に示しているように、高齢者対策は一貫して国の重点施策として推進されてきた。2015年の65歳以上人口は総人口の26%に達すると推計されている。日本社会は高齢者の社会的扶養の仕組みをいかに形成するか、世代間のコンセンサスをいかに作り上げるかが国家的課題になっている。今日の「自助」を強調する新自由主義の流れのなかで、社会連帯「共助」の思想は、超高齢社会に直面するわが国に必要な教育である。「共に助け合う社会」が「公助」を補完し、日本型の福祉社会を形成するのに欠かせない。

また、高齢社会の要因のひとつである平均余命の伸長は、様々なライフコースを選択しても、大多数の人々が老後問題を抱える。老後の前期では就労を含め、いかに社会に参加するかということが課題であり、高齢者の仕事と生活を中心に人生設計を考える必要がある。「老後をいかに生きるか」は人生の大きなテーマである。

老後の後期は健康と介護が主要な課題になる。核家族化や共働き世帯の増加

は家族の介護力の低下を招き、また、介護が重度化、長期化することによって介護の社会化が必要となり、2000年に「介護保険制度」が実施された。介護の社会化は介護の担い手を外部化することであり、その人材育成の教育はこれからの日本になくてはならないものである。

## ②雇用形態の変化

しかし、若者の数が減少する一方で、正規雇用につかないフリーターやニートと呼ばれる未就業者が増加している。そして、そのような若者の経済基盤の不安定化が、一層少子化に拍車をかけている。

また、一方では海外からの労働力の流入により、地域はもとより、日本全体の労働生産性の低下が、今後益々激しくなることが予想される。

若者が地域社会を支えるため、ひいては日本の産業経済を担っていくために、持てる能力を十分発揮するには、これまで以上に職業的自立を図るための、若者のキャリア形成支援を行うことが重要となる。

多くの企業は、これまで新卒一括採用により、職業人としての教育を企業内で行ってきた。しかし、現在では即戦力の必要性から、多様な採用時期や方法を探りはじめ、採用形態には大きな変化が現れている。

また、大学卒の3割が3年以内に離職するという報告もあるように、労働需要とのミスマッチも生じていると思われる。

今後は、終身雇用制度が崩れ、労働力の流動化がより一層進む中、企業の経営環境の変化や多様化に伴い、若者の就労支援施策は、さらに重要性を増してきている。

## ③ 人間形成とソーシャルスキルの教育

21世紀は「心の時代」または「宗教の時代」とも言われている。それは、高度に発達した物質文明は内的な世界を重視するからである。氾濫する物質や情報の洪水のなかで、自我の形成の重要性は言うまでもない。しかしながら、青年期に達しても自我との同一性を確立できないものが今日、社会で問題を起こす。「自分とはなにか」という教育がまさに必要である。

また、自我の社会性の観点から、他者を通じて自我を知り、その過程で社会の文化を修得することによって、社会的な人間として存在する。それには、社会に対する理解からはじまり、他者を自分の中に内在しながら生きることもである。他者との関係をうまく形成することが現代社会で生きるために欠かせない。ソーシャルスキルの修得を通して人間教育を行う。

## (2) ライフデザイン学科設置の必要性

### 1) 生活文化学科の課題

生活文化学科は、産業社会の進展や生活環境の変容など、現代社会の新たな潮流に対応し、豊かな感性と創造性に富み、家庭、職場、地域社会で主体的に行動しうる知識と技術力を身に付けた人材の育成を目指し、特に文化性の高い生活設計能力の養成、経済社会における実務的能力の養成を通して、充実した生活の形成を目指し、各ライフステージに即した多様な教育を行ってきた。しかし、迫り来る高齢社会の到来に対して、我々は、この長い人生をどのように生きるかという、新しいライフデザインを必要とする時代を迎えようとしており、さらに幅広い視点で、地域社会や企業におけるさまざまな活動の、リーダーとして活躍できる人材の育成が課題となっている。

### 2) 人間福祉学科の課題

人間福祉学科は、人間の生き方と価値観を追求する教育を行ってきた。それを踏まえた上で介護福祉専攻として、高齢者、障害者などのいわゆる社会的弱者を中心に、対象者やその家族の生活における課題を正しく理解し、解決に向けて援助する役割を果たす、介護福祉士の養成を目指してきた。平成21年4月より施行される「改正介護福祉法」による「求められる介護福祉士像」にみられるように、介護サービスの中心的役割を担える人材として、従来の身体介護にとどまらない、心身の状況に応じた対応、個人の尊厳の保持、自立した日常生活を営む支援、コミュニケーション能力等、高齢者、障害者などの対象者やその家族の生活問題等、多岐にわたり理解することが必要となってきた。

### 3) ライフデザイン学科への転換

このように双方の学科、専攻の課題に対し、本学で鋭意検討した結果、生活文化学科と人間福祉学科介護福祉専攻を基礎とし、これらの内容を更に充実させ、複雑化・多様化する長い人生をどのように豊かに生きるかを考える「ライフデザイン学科」を設置するに至った。

## 2. ライフデザイン学科の特色

ライフデザイン学科は、少子高齢社会における家庭、職場、地域社会など広範囲な生活領域で、創造的に対応しうる素養の育成に目標を置き、新しい生活スタイルの創造や優れた職業人になるための教養、技能を研鑽し、併せて少子高齢社会の生活問題解決を援助していくための能力を養成するとともに、具体的方策の企画立案手法や、援助技術を修得させることを目指している。

また、地域に根ざし、地域に開かれた大学の責務として、地域への人材の供給はもとより、積極的に教育・研究活動を通じて地域企業や行政との連携を深め、地域の問題解決に貢献することも、大きな目標としている。これを効率的に行うためには、幅広い分野における専門的な教育が必要とされるが、それぞれの分野で必要とされる人材は限られており、大規模な教育機関におけるマス教育ではなく、少人数によるきめ細かな対応と、分野の連携による相互理解が不可欠であると考えられる。

これらのことを踏まえ、本学科では、現代社会における多様化する生活者のニーズや諸問題や、地域が抱える多くの課題に対応するため、また、人間性豊かな「生活」を営む上で必要な知識や技術の修得を可能にするため、「生活」に深く関わる情報関連分野、住環境に関する分野、福祉分野を学びの対象とし、学生一人ひとりの興味や目標、進路に沿った「インテリアデザインコース」「情報メディアコース」「介護福祉コース」の3コースを設定し、より専門性の高い実学的な学びを実現する。

## (1) 教育課程編成の考え方

### 1) 高齢化・情報化社会とライフデザイン学科が目指すもの

周知の通り、我が国の人口高齢化は社会的に多くの影響を与え、国は高齢化社会の諸問題の施策を重要政策として推進してきた。国民生活の設計においても老後問題は大きな要素であり、ライフデザインの領域において高齢者の生活をより広く深く学ぶ必要性がある。インテリアデザインコース（住領域）は、高齢者世帯向けの住宅環境のあり方を学び、そしてそれはユニバーサルデザインに収斂し、新しい住文化の創造を目指す。インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターの育成を行い、快適な住環境の改善に役立つ人材の養成を行う。

また、今日、インターネットやコンピューターが制御する機器やシステムが職場と生活の場に普及し、情報技術（IT）の知識と技能の修得が、生活の質を向上するための手段として不可欠である。情報メディアコースでは、既存のコンピューターソフトウェア活用の基本に加えて、それぞれの職場や生活で活用できるように応用する知識・技能やサーバー管理技術を修得させ、それを情報化社会に生きる現代人の基礎的知識・技能として位置づけ、より専門的には「情報処理士」の育成を行う。

さらに、高齢者世帯の増加は、寝たきりなどの介護を必要とする対象者が増え、家庭や社会全体における介護の理解は欠かせない。介護福祉コースは、国の、施設より居宅での介護の方針を推進する施策にそって、家庭における介護のための知識と技能の修得を、さらに発展的に「介護福祉士の資格」取得を目的とする。

ライフデザイン学科に介護福祉コースを設置する教育効果は、介護福祉コースの履修生がインテリア関連の科目の履修によって、国の進める居宅介護に向く住宅について、それぞれの要介護者にあつた住宅改修（介護保険給付）を、建築関係者に助言できる能力が備わり、利用者の介護状況を改善できるという大きな教育効果がある。

## 2) 教育課程編成の枠組み

このような、人口の高齢化と情報化の社会変化にたいし、本学の教育理念である「日本文化を継承し、豊かな人間性を育み、高度な技能を修得せしめ、社会においてその実力を発揮しうる人材の育成」の具体化において、激変する現代社会に対応できる人材の育成のために、学生の人間力と職業観を育て、さらに、各領域の専門性ならびに応用力（スキル）を高める目的で科目設定した。

設置予定のライフデザイン学科では基礎教育科目群、専門教育科目群を設定し、基礎教育科目群は人間の理解、社会の理解、コミュニケーション、情報・基礎教養、語学、保健体育から構成する。また、専門教育科目群は専門理論科目群、専門技術・実技科目群に体系化し、教育目標の達成が明確になるように科目編成を行った。

ライフデザイン学科は介護福祉の領域を加え、学際的教育の推進を図るとともに、福祉の思想を学ぶことによって現代社会における人間観、価値観を涵養する教育の充実を行う。なお、内容は平成21年度施行の「改正介護福祉士法等」の精神である「求められる介護福祉士像」の方向に沿ったものに設定した。

### (2) カリキュラムの特色

#### 1) 基礎教育科目群

ライフデザインは、まず人間とは何かを考えることから出発し、それを「人間の理解」で、また、社会的存在としての人間を理解するために「社会の理解」を、そして、社会生活に必要な基礎知識と技能を「情報・基礎教養」から修得する。さらに、それらの知識と技能を家庭や社会（職場も含む）で生かす能力を身につけることによってそれらの力が生きる。「コミュニケーション」、「日本語表現法」は自分の考えを正しく相手に伝える能力を意味し、人間関係形成に寄与する。また、「パソコン活用演習」「外国語科目」による言語表現と情報機器の活用によってプレゼンテーション力を高める。

#### 2) 専門教育科目群

##### ①専門理論科目群

基礎教育科目群で修得したものをさらに深めるために配置した。したがって、より高度な専門知識を学ぶので、コース選択を明確にし、インテリアデザイン、情報メディアおよび介護福祉の分野での専門職になるために必要な、専門理論科目を配置した。

インテリアデザインは「デザイン論」「インテリア論」「室内環境計画」「建築計画」「構造力学」「建築法規」等を、情報メディアではクライアント・サーバーシステム「サーバー入門」や近年注目されているOSの「リナックス入門」を学ぶ。介護福祉コースは「こころとからだのしくみの理解 A,B」によりさらに介護に必要な医学的知識を深め、「発達と老化の理解」「認知症の理解」等高齢者理解と「障害の理解」により対象理解度を高める。

## ② 専門技術・実技科目群

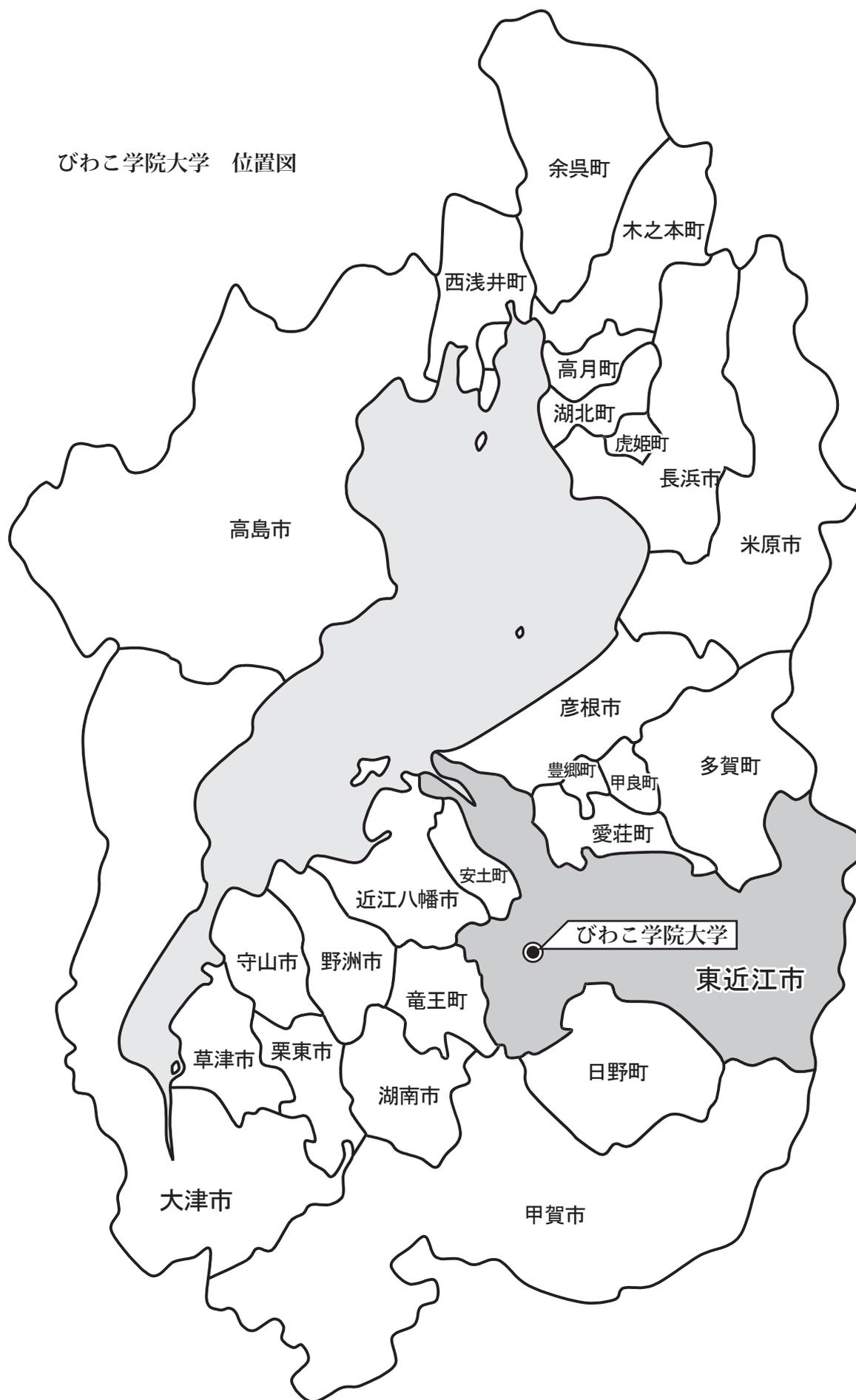
専門技術・実技科目群はそれぞれの領域の基礎知識とより深い理論を実践するための科目であり、技能（スキル）の修得を目的とする。

インテリアデザインコースは「スペースデザイン」「インテリア演出計画」「ファニチャーデザイン演習」「設計製図演習」等のデザイン感性の向上と、「CAD演習」のコンピューターを使ったより高度な製図設計能力の習熟を目指す。

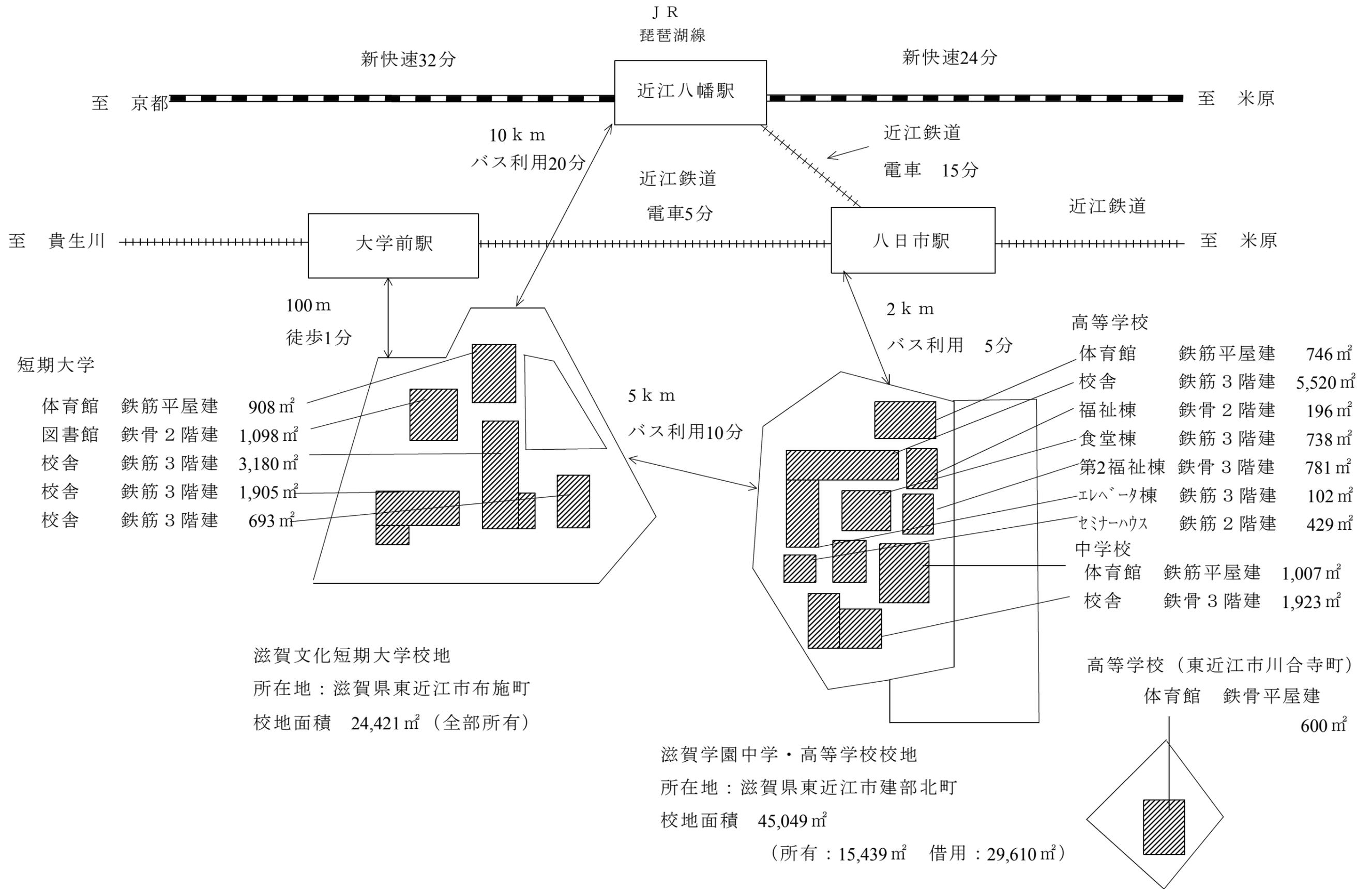
情報メディアコースはデスクトップパブリッシングの「DTP入門」、今日インターネットでは不可欠のホームページについて「ホームページデザイン」そして、初級システムアドミニストレーターの資格取得を目指す「コンピューターネットワーク」を学び、専門職への途を切り開くために配置した。

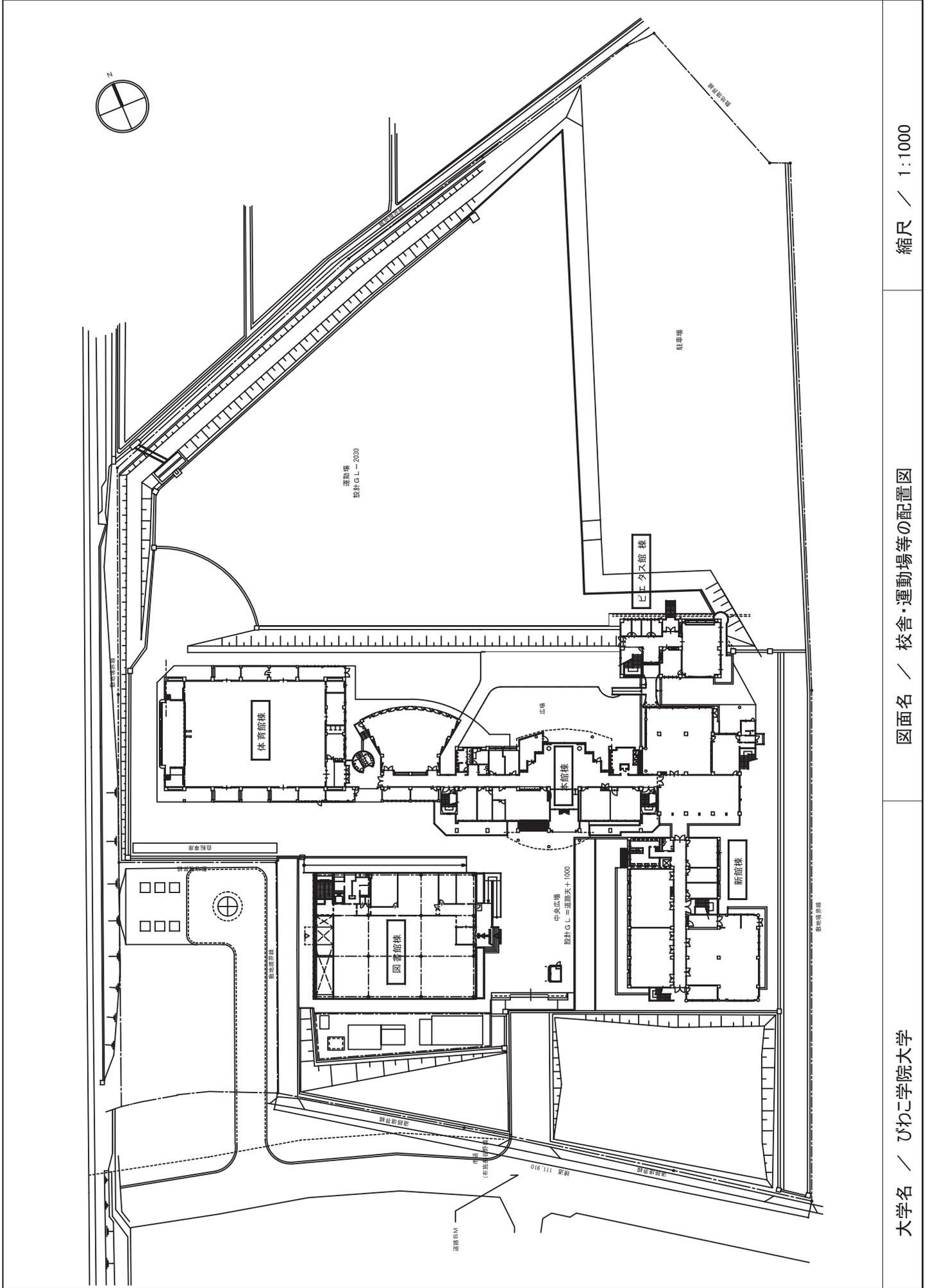
介護福祉コースは介護福祉士の受験資格を取得することを目指しており、受験資格取得に必要な実技・実習科目を配置した。「改正介護福祉法等」に定めるカリキュラムに沿って作成しているが、その基準を本学のこれまでの介護福祉士の養成経験をふまえ、「生活援助技術」を6段階、介護実習を4期に細分化し、よりきめの細かい技能修得に配慮した。

びわこ学院大学 位置図



# 学校の位置及び校地、校舎の配置図の概要







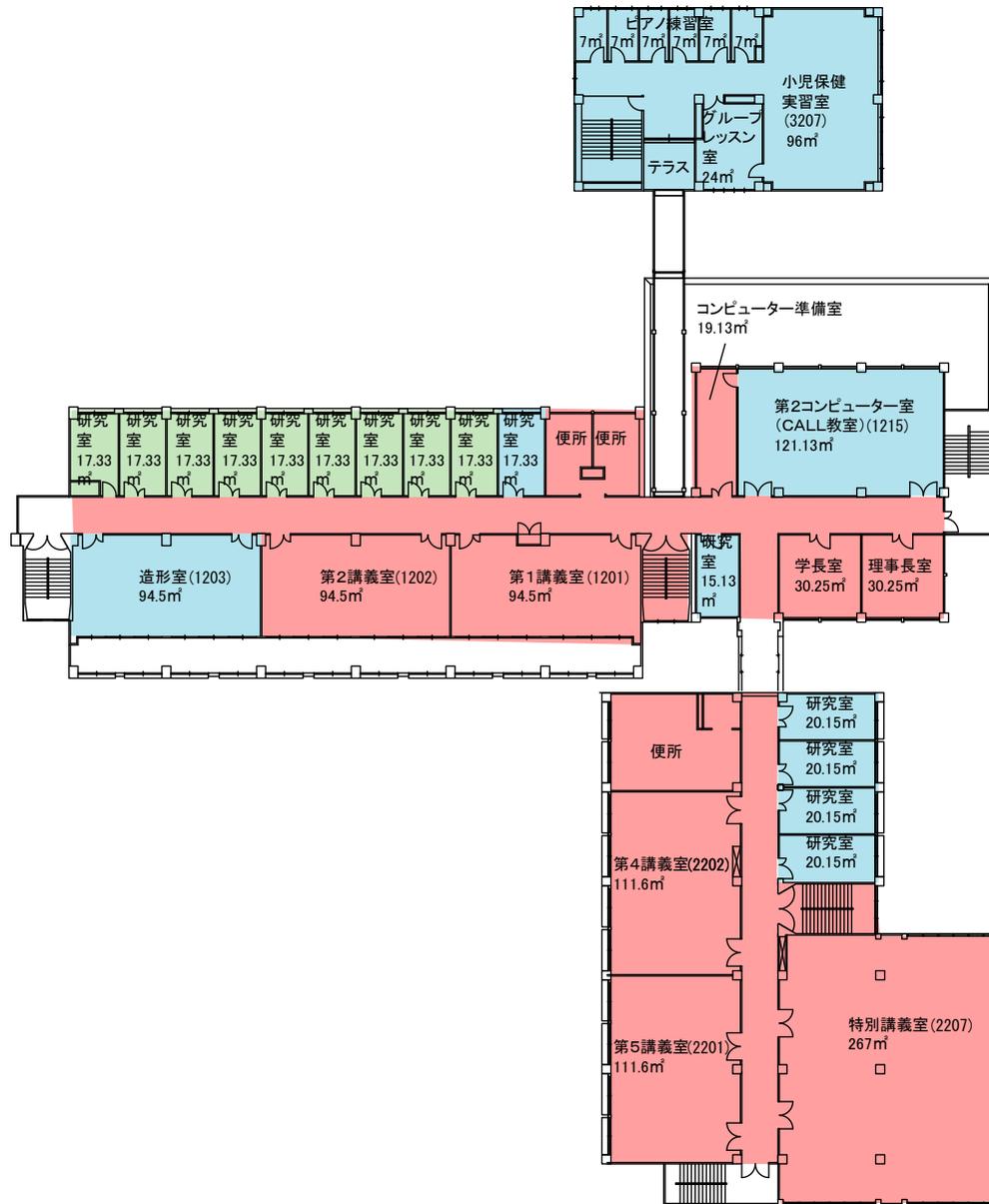
大学名 / びわこ学院大学

図面名 / 1階平面図(全体)

縮尺 / 1:500

5

	大学専用
	大学・短期大学部共用
	短期大学部専用
本館棟2階	916.84㎡
ピエタス館棟2階	232.56㎡
新館棟2階	733.56㎡



大学名 / びわこ学院大学

図面名 / 2階平面図

縮尺 / 1:500

9

<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 大学専用	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightcoral; border:1px solid black;"></span> 大学・短期大学部共用	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightgreen; border:1px solid black;"></span> 短期大学部専用	
本館棟3階	974.22㎡
ピエタス館棟3階	238.30㎡
新館棟3階	446.31㎡

